

六田晴洋の

# 私たちの ご近所さん



VOL. 34 トガリネズミの鳴き声

冬の間、冬眠をしないトガリネズミたちは主に雪の下で活動しています。枯れ草が雪を支えることでできるわずかな隙間が通り道です。その道はネズミたちとの共有の物のようです。ところがトガリネズミとネズミ、トガリネズミ同士、ネズミ同士がバツタリ鉢合うことはほとんどなく、可能な限り避け合っています。決して広くはない通り道彼らはお互いの存在に気を配りながら慎重に暮ら



T字路に差し掛かったトガリネズミ



恋問海岸に渡ってきたコミミズク

しているようです。  
**野外で初めて聞いた声**

風がなく波も穏やかで、とても静かな夕方。聞き慣れた音が雪の下から聞こえてきました。トガリネズミの鳴き声です。鈴の音のような、甲高くとても小さな声。飼育下ではよく聞いていた音です。耳を澄ますと何度

も聞こえてきます。これまでは風や波、草がこすれる音に遮られて聞こえなかったのでしょうか。トガリネズミはどういう時、何のために鳴くのか、今までよくわかりませんでした。他者と鉢合わないように自分の存在をアピールしているのかもしれない。野外でトガリネズミの鳴き声を聞いたのは初めてのことだったので、嬉しくてずっと聞

いていました。  
**音を頼りに狩りをする「コミミズク**

鳴き声を発することは大きなデメリットを伴います。フクロウの仲間、コミミズクに襲われる危険があるのです。コミミズクはユーラシア大陸北部などから越冬のため日本にやってくる渡り鳥です。丸く平らな顔はパ

ラボラアンテナのような役割を持ち、トガリネズミやネズミが出すわずかな音を聞き取り、見えな場所にいる獲物も捕らえます。人間の私にも聞こえるトガリネズミの鳴き声は、コミミズクにはさらにはつきりと聞こえるはず。そんな危険があってもトガリネズミにとって鳴き声は重要なのでしよう。もしかしたらその役割は他にもあるのかもしれない。

## PROFILE

六田晴洋 ろくたはるひろ

1986年生まれ。  
2021年に白糠町へ移住。  
大学卒業後、フリーランスのカメラマンやディレクターとして野生動物や自然風景を撮影している。  
<https://rokutaharuhiro.com>

